

風土記の丘の花だより¹¹³

今、そしてこれから見られる植物(2021年12月4日)

一雨ごとに冬に近づいていることを実感します。野山の色も少しずつ色彩を欠き、冬の景色になってきました。見られる花も限られてきました。今回も木の実も含めて紹介しようと思います。



センリョウの赤い実がきれいに色づいてきました。柳川家の庭には黄色い実のセンリョウが植えられていますが、自生の株があることを当館の職員に教えていただきました。見えにくい所に生えているのですが、コウテイダリアの奥の山裾を探していただくと、ひょっとしたら道からでも見えるかもしれません。

センリョウは次に紹介するマンリョウとともにおめでたい植物として、人との関わり深い植物ですが、センリョウはセンリョウ科、マンリョウはサクラソウ科で、全く違う仲間です。



ではマンリョウを紹介します。ちょっと前まではヤブコウジ科に分類されていましたが、今は前述のようにサクラソウ科となっています。センリョウの実が葉の上に付くのに対してマンリョウは下向きに付きます。葉はセンリョウに比べると硬く小さく、幹も茶色っぽく、全体として「木」というイメージが強いです。いずれにしてもどちらもホントにおめでたい名前ですね。



クスノキ科のシロダモの木に花が咲いています。それほど目立つものではありませんが、前回紹介したハナノキの下まで行ってみてください。赤い実もなっていますので、同時に見ることができます。雌雄異株で、その木には実がなっているので雌株ということになりますね。今咲いている花が、来年の秋に赤い実になるのです。



イヌホウズキの仲間が黒い実と白い花を付けています。この仲間には種類が多く、なんとかイヌホウズキというのがたくさんあり、参考にする資料によって書いてあることが微妙に違うので、私も分かりかねています。それでこんな草は「イヌホウズキの仲間」としてしています。ナス科の植物で、そう言えば花がトマトやシシトウなどに似ていますね。(これから勉強します!) 松下